

山田小学校区 きずなづくりトークの意見概要と方向性

(※●は市の回答)

10月19日 市民体育館

地域	現況・課題	今後に向けての対応策・要望
若松町	<p>○9月30日に防災訓練を実施した。例年と変わらない訓練内容である。</p> <p>○学生の参加が多かった。中学・高校から参加証明書が配布された。</p> <p>○毎年参加者は250人前後だが、306人に増加した。</p> <p>●高校では県教育委員会から訓練に参加するように言われている。市内の中学校は、学生を訓練に参加させるよう指導しているところがとても多い。(市長)</p> <p>○毎年同じような訓練内容なので、自己満足で終わってしまうのではないか。</p>	<p>○町内会だけでは拘束力がないので、幼稚園・高校も含めて地域全体で協力していきたい。</p> <p>○市の方で、「震度7の地震が発生した」などテーマを設定してほしい。</p> <p>●テーマについては来年度の防災会で話したい。(市長)</p>
三恵台	<p>○今年初めて、自主防とは別に防災部をつくった。14名で構成され、各組や班の指導をしてもらう。</p> <p>○防災部と班長・組長40名で啓発活動を行った。講師の方から、避難するときには水・食料の用意が必要であり、水がこない場合に備えて1か月分の水を用意するよう言われた。</p> <p>○災害弱者にあたる、子どもや高齢者などの手助けしなければいけない人達をどうしたらいいか。</p> <p>○参加者は多く、3. 11以来積極的である。</p> <p>○避難場所が山田中学校になっているが、崖が危険なため、自宅に避難することになった。</p>	<p>○従来と違う新しいスタイルの訓練を12月に行う。実施後は反省し、また新しい内容を考えていきたい。</p> <p>○自分の家は自分で守るよう、耐震補強を一から見直している。</p>
旭ヶ丘	<p>○震度5弱以上の地震が起こった際は、自主防災会本部を立ち上げる事に決めた。</p> <p>○7月1日に、避難所体験訓練を行った。指導員の方に来ていただいた。</p> <p>○9月16日に防災講演会を開き、市の危機管理課の職員に講演してもらった。立ち見</p>	

	<p>席も出るほど好評で、住民は災害について非常に関心が高い。</p> <p>○8月には防災アンケートを町内会で実施した。回収率は70%であった。自分の身を守るということで、水や食料等の備蓄について尋ねた。</p> <p>○家具転倒、耐震診断の申込みもアンケートと同時にいった。家具転倒は5件、耐震診断は去年が6件、今年は5件の申し込みがあった。「引き続き来年もやってほしい」という声もあった。</p>	
	<p>○10月14日に山田中学校と合同で防災訓練を開催した。中学の先生に連絡し、学生を参加させるよう取り組んだ。学生には救護班、消防班など役割分担をして手伝ってもらった。</p> <p>○訓練参加者は405名だった。消防第11分団からも20名が応援に駆けつけ、充実した訓練であった。</p> <p>●素晴らしい訓練内容である。(市長)</p>	<p>●中学生は戦力となる。(市長)</p>
	<p>○会議に出て状況を把握しなければならないので、大変である。(老人クラブ)</p> <p>○普段若者は勤めに出ており、地域にいないことが心配である。(老人クラブ)</p>	<p>○町内会と連携しておく必要がある。(老人クラブ)</p> <p>○町内会の活動にも積極的に参加しなければならない。(老人クラブ)</p> <p>○何かあった場合、機材の取り扱いがわからないので訓練にも参加したい。(老人クラブ)</p>
山田町	<p>○世帯数が少なく、昔から住んでいる住民が多い。どこの部屋に誰が住んでいるか把握しているため、訓練はしていない。</p> <p>○町内会長が指示をすれば、住民が従うような体制はできている。</p> <p>○消火ポンプの定期点検を行っている。</p> <p>○消防団も他地域の防災訓練や操法訓練に出るなど、自身の仕事を抱えながら忙しく活動している。</p> <p>○運動会を開催できないのは市の組織の問題。山田校区には、錦田地域と旧市街地の東地区に入る地域がある。今まで20数年間、山田地域単独で頑張ってきたが、自治会活動が二重になってしまう。</p> <p>○役員になると、顔を出さず会議も月に3、4回と大変多い。自分の仕事ができなくなる。</p> <p>○運動会やお祭りを開催する際の、基盤の組織作りができていないことが問題である。</p> <p>○お祭りを通して顔見知りになるような、地域のコミュニケーションが取れていない。</p>	<p>○消防団の活動が落ち着いてから連携の話をしようということで、話が進んでいる。</p>

山田中学校	<p>○学校の一番の役割は、生徒の命を守ることである。</p> <p>○今年3月、県の「学校地震防災マニュアル」が改訂になった。それを受けて、校内の応急計画書を作り直した。授業中、部活中、登下校中など状況を細分化してまとめた。</p>	
	<p>○避難所の運営マニュアルも作成し、全職員に配布した。6月に地域の防災会議が開かれ、町内会、自主防災会、危機管理課職員、現地配備員に配布した。</p>	<p>○職員が学校にいない場合、地域の方に避難所運営をしてもらう必要がある。</p>
	<p>○DIGは時間がかかるので、先日心配蘇生法、AEDの講習を1、2年対象に行った。1月の訓練では、起震車、スモークハウスを頼んだ。</p>	<p>●子ども達に、授業の中で防災教育を行いたい。</p>
	<p>○学校に来れば、ミルクと毛布が与えられるわけではない。避難時には3日分の食料を用意するように説明した。</p>	<p>○住民に意識を変えてもらいたい。</p>
	<p>○中学生の地域の防災訓練参加率は、2年前で0%だった。参加率を上げるため、町内会長と連絡を取って日にちを把握し、参加させようと努力している。今年は部活動の新人戦と重なったので、大会に出ない生徒は訓練に参加させるようにした。</p> <p>○マニュアルが変わり、震災時は集団下校でなく保護者へ引き渡すことになった。引渡し訓練を行ったが、関心が高く参加率は80%だった。その日の内に引渡すことのできる児童は60%、残りの児童は学校で一晩を過ごすことになる。備蓄物資に、子ども達の分の食料が確保されてないことが問題である。</p>	
	<p>○山田中学校校舎にタンクが無く、電気が止まると水が不足する。</p>	<p>○市の教育委員会に、タンク設置をお願いしなければいけない。</p>
	<p>○現在はハード面の問題を洗い出している段階である。</p>	
	<p>○中学生もマンパワーになる。(PTA)</p> <p>○地域の中で、お互いの顔が分かっていると連携しやすい。(PTA)</p>	<p>○父親がいない時間の災害に備え、家族の中で細かな決め事をつくる必要がある。(PTA)</p>
	<p>○親父の会を発足した。(PTA)</p>	<p>○災害時における父親の役割も考えていかなければならない。(PTA)</p>
山田小学校	<p>○災害はいつ起きるか分からない。</p>	<p>○マニュアルの作成などは緊急の課題であることを、職員が自覚しなければならない。</p>
	<p>○小学生は自分からは行動できない。</p>	<p>○災害時、周りの人にどう声をかけ、どう動いたらいいか学べるようにしていきたい。</p>
	<p>○今年、小学校より旭ヶ丘幼稚園を優先させ</p>	

	た引き取り訓練を行い、スムーズにできた。	
	○山田中は歩いていける距離である。	○今後は中学校と連携していきたい。
	○保護者が引き取りに来るまでは、学校で子どもを預かる。	○学校は避難所の役目もあるが、まずは子どもの命を優先させたい。
	●3. 11では、フェアキャストがつながらなかった。(市長)	
	○日本PTA協議会の監督大会で、地域のつながりの大切さを実感した。(PTA)	○自治会と協力しながら、若者が参加できる行事を考えていきたい。(PTA)
	○校区が広いと、地域活動に目が届いていないところもある。反省しなければならない。	○地域活動の情報収集に力を入れていかなければならない。
	○子ども達と地域行事について話ができていない。	
	○町内会で運動会を0からやろうとすると、負担が大きい。(PTA)	○地域でいきなり運動会開催は大変なので、学校と地域がコラボし、少しずつ地域の方が参加できるようにしていきたい。(PTA)
	○今年の中学の運動会で、保護者が綱引きをして好評だったため、小学校でも父兄競技をやった。延期になり平日開催だったが、かなりの父兄が集まった。若い父親は、初めての子どもの運動会なので、仕事を休んで参加する。(PTA)	
全体	◇防災訓練	
	●9月1日は防災の日。従来、東海地震は予知できるという前提で訓練を行っていたが、地震の予知はかなり難しいようである。(市長)	●突発的に地震が起こる可能性があるので、気をつけてほしい。(市長)
	●12月第1日曜日は地域防災の日。突発型地震への対応する訓練を行う。(市長)	
	●三島の一番のウィークポイントは火災。大火になる恐れもある。(市長)	●初期消火の訓練が必要である。(市長)
	◇地域行事	
	●お祭りの際、中学生にお店を任せている地域がある。(市長)	●健全育成も含め、中学生を日頃から町内活動に参加させることが重要である。(市長)
	●中学生は地域行事に出たがらないが、あえて参加させているところもある。(市長)	
	○山田地区では消防団員不足が問題である。(山田小PTA)	○地域で育ってきた若い社会人が地域行事や訓練に参加できるようにし、団員や災害時の即戦力として活躍してもらいたい。(山田小PTA)
	●運動会は、子ども達から年配の方まで様々な世代がふれ合う機会となる。(市長)	●健康維持のため、地域のきずなを深めるために復活を検討してほしい。(市長)
	●防災訓練の後、運動会を行う地域もある。(市長)	

	<ul style="list-style-type: none"> ● 阪神淡路大震災のとき、地域で運動会やお祭りを行うところは避難所の運営がスムーズだった。(市長) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域のきずなづくりが必要である。(市長)
◇要援護者		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 要援護者台帳をつくっても、そこで終わってしまう。(中央婦人学級) ○ ボランティアを決めても、災害時に要援護者の近くにいないこともある。(中央婦人学級) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 要援護者1人に対して、2人ほどのボランティアをつけたい。(中央婦人学級) ○ 要援護者とボランティアで地域の温泉に行くなど、普段から交流を重ねた方がよい。(中央婦人学級)
◇地域の連携		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校からの協力、メッセージが多くなった。(三恵台) ○ 10年前はゆとり教育が行われていたが、現在は学習力の向上に力を入れているため、地域との連携には目が届かなくなったと感じる。(若松町老人クラブ) ○ 先生の仕事量も多くなり、地域活動から疎遠になっていきている。(若松町老人クラブ) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 予算、職員が減り、行政の方で各町内会を平等に支援することは難しい。災害から生き残る人を増やすには、地域のきずなが必要である。一番まとまりのある校区単位できずなを作れば、今後住みやすい地域づくりにつながるのでは、と話し合いの場を設けた。(環境市民部) ● 解決の糸口がつかめないことも多いが、問題点を洗い出し、地域で解決する問題と行政に頼む問題を考えることが大切である。(環境市民部) ● 山田小校区では、地域の中で学校がつなぎ役として求められているのではないか。地域で話し合いの場を設けて、議論して欲しい。(環境市民部)